

【一般選抜前期 B 日程 / 共通テストプラス方式（1 日目）】

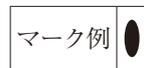
2 限 目

注 意

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 不正行為を行った場合は、本学の選抜日程全ての成績を無効とします。
3. 問題冊子は 1 部、解答用紙は 1 枚です。
4. 出題科目、ページおよび選択方法は、下表のとおりです。

出題科目	ページ	選択方法
物理基礎・物理	1 ～ 8	解答科目は、選択できる科目を受験票で確認のうえ、選択しなさい。
化学基礎・化学	9 ～ 15	
生物基礎・生物	17 ～ 28	
日本史 B	29 ～ 38	
国 語	国語 1 ～ 国語 20（うしろから始まります）	

5. 解答は全てマークセンス方式です。マークは黒鉛筆(シャープペンシル可)で右の例のように正しくマークしてください。



6. 解答用紙には解答欄のほかに次の記入欄があります。

(1) 受験番号欄

受験番号を受験番号欄の上欄に算用数字で記入し、さらにその下のマーク欄にマークしてください。なお、受験番号欄には、一般選抜前期 B 日程の受験番号を記入してください（一般選抜前期（共通テストプラス方式）の受験番号は記入しないこと。）。

(2) 解答科目選択欄

解答する科目を 1 つだけ○で囲み、さらにその下のマーク欄にマークしてください。

※受験番号および解答した科目が正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。

7. 記入したマークを訂正する場合は、プラスチック製消しゴムで完全に消し、改めてマークしてください（消しくずを残さないこと）。
8. 解答用紙は折り曲げたり、汚したりしてはいけません。
9. 解答用紙の※印欄はマークしてはいけません。
10. 問題冊子と解答用紙にページの落丁・乱丁および印刷の不鮮明な箇所や汚れなどがある場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
11. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

国語

(解答番号)

(1)

(58)

I 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(六〇点)

勤務先の大学の女子学生と話していたときのこと。その日は大学でイベントがあり、何人かの学生や教員たちが集まって終了後にみんなで打ち上げをしていました。ところがその女子学生が、九時を回ったあたりでソワソワしはじめたのです。もう帰らなくちゃ、と。門限が一〇時なのだそうです。

やりたいホウダイ^Aやらせてもらっていた自分の学生時代に比べたら、門限が一〇時とはずいぶん真面目だなあ、きつといるのだろう、と微笑^{ほほえ}ましく思っていました。ところがその学生のソワソワぶりがどうも普通ではないのです。聞けばすでに携帯に親から電話がかかってきて、早く帰ってくるように言われた、と言うのです。

なぜ門限一時間前なのに電話がかかってくるのだろう、と訝^{いぶか}しがる私の表情を察知して、その女子学生の友達が言いました。

「あ、〇〇ちゃんはGPSで居場所がいつも分かるようになってるんです」

A 親御さんは、彼女がいま自宅から一時間ほどかかる場所にいることを知っていて、だからそろそろ帰ってこい、と連絡してきたと言うのです。

うーん、それを聞いて私は複雑な気持ちになってしまいました。確かに子供を心配する親御さんの気持ちは痛いほど分かります。心配ゆえに、GPSで常に子供の居場所を把握できるようにしておきたい。それは間違いなく娘さんを思っていることでしょう。どのくらい一般的なのかは分かりませんが、子供向けの携帯電話にはGPSを使った見守り機能をトウサイ^Bしたものがあると聞いたことがあります。もしかすると、その女子学生も、幼かったところからの習慣で、ずっとGPS機能を利用しているのかもしれない。

気になるのは、そこに信頼があるのかどうか、ということですが、確かに、居場所が分かることは、親からすれば安心でしょう。しかし子供の成長を思っていて、自分が感じている不安をぐっと抑えなければいけない瞬間があるはずですが、たとえば子供が「一人で電車に乗ってみたい」と言い出したとき。あるいは「一人で料理をしてみたい」とお手伝いを申し出たとき。つまり子供が「
II
」を望んだときです。そういうときは(あれに気を付けろ、

これに気を付けろ、とさん¹さん注意したあとで) 子供を信じて、「やっこらん」と背中を押す。要するに「III」の心境です。

そこでもし、「やっこらん」と言いながら子供の行動を監視してしまっただろうでしょうか。子供は「自分は信じてもらえていない」「お父さん、お母さんは自分を一人前だと認めていない」と自信を失くしてしまうのではないのでしょうか。「信じられている」という気持ちですが、子供が安心して新しいことに挑戦するために必要であるならば、不安な気持ちをぐっとこらえて、子供を信じるほうに賭けることも必要なのではないか。私自身はそんなふうには考えませんでした。

子育ての方針についてはいろいろな考え方があろうでしょう。重要なのは、「信頼」と「安心」がときにぶつかり合うものである、ということだと思います。「安心」を優先すると、「信頼」が失われてしまう。逆に「安心」を犠牲にしても、相手を「信頼」することがある。二つの言葉は似ているように思われますが、実は見方によっては相反するものなのです。

² 社会心理学が専門の山岸俊男は、「安心」と「信頼」の違いを、「針千本マシン」という架空の機械を使って説明しています。針千本マシンとは、喉に埋め込むタイプの機械で、その人が嘘をついたり約束を破ったりすると、自動的に千本の針が喉に送り込まれる、という仕組みになっています。

さて、ある人間の喉にこの「針千本マシン」が埋め込まれているとします。そのことを知っている者は誰でも、その人間が絶対に、少なくともIVには嘘をついたり約束を破らないと確信できるでしょう。

B その人間がこれまでに何度も約束を破って、そのために罰として「針千本マシン」を埋め込まれた人間であったとしても、千本の針を喉に送り込まれる目にあうよりは、約束を守ったほうがまだからです。

「針千本マシン」は、機能としては、孫悟空が頭にはめさせられている輪っか(緊箍児^{きんこじ})に似ています。悟空があ 事をはたらくと、三蔵法師が「緊箍児呪」と呪文をとなえる。すると輪っかが悟空の頭を締め付けて苦しめます。つまり、罰がV になつて罪を犯すのを防ぐのです。ただ「針千本マシン」のほうは、刑罰の執行が機械化されている点で、より冷徹と言えるかもしれません。

重要なのは、このマシンがあることによって、まわりの人が、この人間は嘘をつかないはずだという確信をもつということだと思います。まわりの人は、その人物の人格の^cコウケツさや、自分たちとの関係を考えてそう思っているわけではありません。嘘をつくと彼／彼女は不利益をこうむる。C、合理的に考えて、彼／彼女は嘘をつかないはずだ。つまり、まさにその人物が「針千本マシン」を埋め込まれているから、彼／彼女は嘘をつかないはずだ、と判断するのです。

果たしてこれは「信頼」でしょうか。それとも「安心」でしょうか。山岸は、ここには「安心」はあるが「信頼」はないと言います。

重要なのは「彼／彼女は嘘をつかないだろう」という判断に、確信が伴うことです。嘘をつくことによって、彼／彼女は確実に不利益をこうむります（もつとも、少ない確率で利益をこうむる可能性もゼロではありませんが、少なくとも山岸は「確信」という言葉を使っています）。³ まわりの人からすれば、それは確実だから「安心」なのです。想定外のことが起こる可能性がほとんどゼロ。すなわち、「安心」という感情は、状況をコントロールできている想定と関係しています。

他方で、「信頼」が生まれるのは、そこに「社会的不確実性」があるときだ、と山岸は言います。社会的不確実性がある状況とは、「相手が自分の思いとは違う行動をする可能性がある、つまり自分を裏切るかもしれないような状況」のこと。すなわち信頼とは、「相手の行動いかんによっては自分がひどい目にあってしまう状況で、相手がひどいことをしないでだろうと期待すること」なのです。安心と信頼の違いを、山岸は端的に次のように整理しています。

信頼は、社会的不確実性が存在しているにもかかわらず、相手の（自分に対する感情までも含めた意味での）人間性のゆえに、相手が自分に対してひどい行動はとらないだろうと考えることです。これに対して安心は、そもそもそのような社会的不確実性が存在していないと感じることを意味します。

要するに、安心とは、「相手のせいで自分がひどい目にあう」可能性を意識しないこと、信頼は「相手のせいで自分がひどい目にあう」可能性を自覚したうえでひどい目にあわない方に賭ける、ということ。もしかしたら、一人で出かけた子供が行き先を間違えて迷子になるかもしれない。途中で気が変わって、渡した電車賃でジュースを買ってしまうかもしれない。そう分かっているもお、行っておいでと背中を押すことです。

ポイントは、信頼に含まれる「にもかかわらず」という逆説でしょう。社会的不確実性がある「にもかかわらず」信じる。この逆説を埋めるのが信頼なのです。

なんて不合理な、と思うかもしれませんが。けれども実際の機能としてはむしろ逆でしょう。つまり、信頼はものごとを合理化するのです。信頼は複雑なプロセスを短縮し、コストを削減する効果を持っています。

たとえば私の勤務する大学ではある時期、出張に確かに行ったということを証明するのに膨大な書類を作らされていました。カラ出張を防ぐためです。航空券や特急券の半券を持ち帰るのはもちろんのこと、ホテルでは宿泊証明書を作ってもらい、会議に参加すれば会場のままで自分の姿を入れた写真を撮り、それらすべてをそろえて信憑書類^{しんぴょう}として経理課に提出しなければなりません。要するに、教員が信頼されていない。ホテルのフロントや鉄道の

45
駅員さんに書類をお願いするたびに、自分が信頼されていないことを晒しているようで何とも恥ずかしい思いをしたものです。

問題は、これだけの事務作業をするのに、教員や事務支援員の膨大な労働力、つまり時間とお金が割かれているということです。もし大学がひとこと「教員を信じる」とさえ言うてくれれば、膨大な時間とお金を無為に浪費することなく、研究や教育など、大学としてより重要な仕事にあてることができただけです。ところが、信頼がないがために、本来重要でないはずの作業にコストがかかってしまった。**D**、国立大学ですので説明責任があるのは分かりますが、よくよく考えてみれば、いまだき写真なんていくらでも加工できるわけで、そもそも**い**のある不合理的なシステムです。

結局、出張に関するこの複雑な経理システムは、文科省からの「過度なローカルルールは改善すべし」というお達し⁵によって、あるときを境に簡素化されることになりました。その理由は「効率化」。架空の思考実験ならまだしも、現実には社会的不確実性をゼロにするのは不可能です。つまり一〇〇パーセントの安心はありえない。どこまでもシステムを複雑化してしまう無限後退に**VI** くれるのが信頼なのです。

認知症の介護の世界でも、信頼と安心の違いが問題になることがあります。介護福祉士の和田行男は、認知症の高齢者がともに生活を営むグループホームを営んでいます。和田はこの施設に夜間以外は鍵をかけません。つまり、入居するお年寄りが、施設から自由に出入りできるようになっているのです。もちろん、扉にセンサーをつけ、必要に応じて職員が付き添うなど、安全対策はきちんとなされています。周囲の「目」がある範囲内で、お年寄りの自由度が確保されている。**E**、ふつうの家に近い状態で生活することができるとのことです。

「ふつうの生活」がなされている証拠に、入居しているお年寄りたちは、自分でできることは自分で行います。洗濯、掃除どころか、買い物に行き、料理もします。ハウチヨウも握るし、火も使うのです。

いくら安全対策がなされているとはいえ、周囲からすれば不安も残るでしょう。「ふつうの生活」にはさまざまなリスクがともないます。実際、目を離れたすきに入居者さんが外出してしまい、長時間行方不明になってしまうケースもあったそう。「鍵をかけないのは危険だ」という批判も当然寄せられます。

それでも、**6** 和田は認知症のお年寄りを信じようとしてきました。確かに、鍵をかけ、行動を制限すれば事故などのリスクは減ります。けれども、それは生きていることにならないのではないかと。和田は介護現場の現実をこう述べます。

7
とどのつまり、本人が椅子から立とうとすると「危ないから座っていてください」と行動を制止し、本人がどんなに頑張っても立ち上がることがで

きないようなソファ^Fを置いてそこに座らせておいたり、セジ^Eョウして出て行けないようにしたり、物を隠して触れないようにする、薬物を使うなどの手を打つことになるのです。

すると家族等が一番望む「安全な生活」は担保⁸できたとしても、自分の意思を行動に移すという人としてのステキな姿は消え失せ、そのことからくる混乱は増し、動かないことによる心身の活動性低下や能力の衰退が合わさって起こるなど、「生き生きとした姿」を失うことにつながりかねないのです。

安心が前提にする、社会的不確実性がゼロの状況とは、先にも指摘したとおり、確実にコントロールできているということの意味します。相手の行動が予測可能なものになっていて、こちらからするとリスクがない。「相手の行動によってこちらがひどい目にあう」ということがないわけですから、自分と相手の関係も固定されることになる。それは、制御し、支配する関係です。

けれども和田は、どこまでもお年寄りを制御したり支配したりしないようにする。なぜなら、生きることはそもそもリスクを伴うことだからです。もちろんさまざまな工夫によって、リスクを最小化することは重要ですし、和田もその点に関しては細心の注意を払っています。けれども、相手が意思を行動に移すとき、必ず想定外のこととは起こる。だからこそ和田は、お年寄りの力を信じ、「想定外」がゆるされるような生活の場を整えようとするのです。

（伊藤亜紗『手の倫理』より。ただし出題の都合上、表現を一部改めた箇所がある）

問一 二重傍線部A～Eのカタカナを漢字で書いたときに、その漢字と同じ漢字をふくむものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

A ① キユウダイテンに達する

(1)

② 本のダイメイが決まった

③ トウダイ下暗し

④ 課長ダイリ

⑤ ソンダイな態度

B ① 昆虫サイシユウ

(2)

② キョウサイ組合

③ センザイイチグウ

④ サイマツ商戦

⑤ 海外旅行でサンザイする

C ① 完全ムケツ

(3)

② シンケツを注ぐ

③ ドラマがついにカンケツした

④ セイレンケツパク

⑤ ケツシユツした人物

D ① 家具チヨウドヒン

(4)

② 人気チヨウテン

③ チヨウコク刀

④ ラクチヨウ本

⑤ チヨウダの列

E ① シユジンカンシ

(5)

② シセイ方針演説

③ シコウサクゴ

④ シセツ秘書

⑤ 本部のシレイに従う

問二

空欄 I

空欄 VI

に入れるのに最も適当なことを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

空欄 I ① 箱入り娘

② 猫つかぶり

③ お転婆

④ おませ

⑤ おちゃっぴい

空欄 II ① 大成

② 協力

③ 挺身ていしん

④ 愚行

⑤ 冒険

空欄 III ① 一子相伝

② 老いては子に従え

③ 可愛い子には旅をさせよ

④ 負うた子に教えられる

⑤ 親の心子知らず

空欄 IV ① 一時的

② 客観的

③ 意図的

④ 無意識的

⑤ 模範的

空欄 V ① 抑止力

② 試金石

③ 太鼓判

④ 指南役

⑤ 後ろ盾

空欄 VI ① 釘を刺して

② 目鼻をつけて

③ 拍車を掛けて

④ 終止符を打って

⑤ 花を添えて

問三

空欄 A

空欄 E

に入れるのに最も適当なことを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

空欄 A ① さもないと

② さらに

③ すると

④ それなのに

⑤ つまり

空欄 B ① したがって

② ところが

③ たとえ

④ むしろ

⑤ ただし

空欄 C ① たとえば

② だから

③ というのも

④ それどころか

⑤ そうだとしても

空欄 D ① ところで

② 一方

③ もちろん

④ したがって

⑤ たとえば

空欄 E ① それはさておき

② なぜならば

③ ただし

④ まして

⑤ そうすることで

- (16)
- (15)
- (14)
- (13)
- (12)

- (11)
- (10)
- (9)
- (8)

- (7)
- (6)

問四 傍線部1「さんざん」、傍線部4「晒さらしている」、傍線部5「お達し」、傍線部7「とどのつまり」、傍線部8「担保たもできた」の本文中の意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

- | | | | | | |
|------|--------------|--------------|-------------|-------------------------------|---------|
| 傍線部1 | ① 嫌というほど | ② 少しばかり | ③ 一様に | ④ 型通りに | ⑤ 仕方なく |
| 傍線部4 | ① 強調している | ② 広言している | ③ ひた隠しにしている | ④ 冒瀆 <small>ぼうとく</small> している | ⑤ 見せている |
| 傍線部5 | ① 規則 | ② 通知 | ③ 法律 | ④ 仲介 | ⑤ お墨付き |
| 傍線部7 | ① 現時点では | ② 結局のところ | ③ 本当は | ④ 将来的には | ⑤ 図らずも |
| 傍線部8 | ① 催促することができた | ② 請け合うことができた | ③ 頼ることができた | ④ 頼ることができた | |
| | ④ 合意することができた | ⑤ 折り合うことができた | | | |

問五 傍線部2「社会心理学が専門の山岸俊男は、……説明しています」とあるが、筆者は、「安心」と「信頼」の違いの要点は何だと述べているか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 「安心」が、「相手のせいで自分がひどい目にあう」可能性を意識しないことであるのに対して、「信頼」は、「相手のせいで自分がひどい目にあう」可能性があるにもかかわらず、相手を信じるという、一見矛盾するような考えを成り立たせるものであるということ。
- ② 「安心」が、相手が自分を裏切るかもしれないような状況において、「社会的不確実性」が存在していないと感ずることであるのに対して、「信頼」は、同じような状況においても、相手の人間性のゆえに、相手が自分に対してひどい行動はとらず、社会的不確実性が存在すると考えるということ。
- ③ 「針千本マシン」があることによって、まわりの人が、この人間は嘘をつかないはずだという確信をもつことが「安心」であり、逆に、このマシンがなくても、嘘をつくことによって自分が確実に不利益をこうむることがあるときに相手を信じるのが「信頼」であるということ。
- ④ 「安心」という感情は、想定外のことが起こる可能性がほとんどゼロ、すなわち、状況をコントロールできている想定と関係しているが、「信頼」が生まれるのは、相手が自分の思い通りに行動する可能性がある、「社会的不確実性」がある状況に限られるということ。
- ⑤ 「安心」とは、相手の持つて生まれた人間性ゆえに、まわりの人が、この人は悪い人ではないと確信することであり、「信頼」とは、「相手の行動いかんによっては自分がひどい目にあってしまう状況」で、相手が自分にひどいことをしないだろうと予期して待つということ。

問六 空欄 空欄 あ 、 い に入る漢字と同じ漢字が に入るものを、次の各群の①～⑨の中からそれぞれ三つ選びなさい。

空欄あ ① 天地無 ② 井の中の蛙 海を知らず ③ 器 貧乏 (23) (24) (25)

④ 安かろう かろう ⑤ 銭身に付かず ⑥ 御 学者

⑦ 勸善懲 ⑧ 今日は 盤振舞いだ ⑨ 上段に構える

空欄い ① 墓 を掘る ② 虎 に入らずんば虎子を得ず (26) (27) (28)

③ 肉を切らせて を断つ ④ 氷山の ⑤ 頭 を表わす

⑥ 換 奪胎 ⑦ を矯めて牛を殺す ⑧ 偕老同

⑨ 肉相食む

問七 傍線部3「まわりの人からすれば、それは確実だから『安心』なのです」とあるが、このような感じ方について、筆者はどのようなことを述べているか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。 (29)

① 「安心」は、そもそも社会的不確実性が存在していないと感じることを意味するが、「相手のせいで自分がひどい目にあう」可能性を意識しないというのとは、よく考えれば不合理なことだ、ということ。

② 「信頼」は、複雑なプロセスを短縮し、コストを削減する効果を持っているが、「安心」には、そのようなものを合理化する機能がないために、実際の機能としてはむしろ逆になる、ということ。

③ 「針千本マシン」は、刑罰の執行が機械化されている点で、緊箍児より人間味に欠けるので、この思考実験で、一〇〇パーセントの「安心」がありうるのかどうか判断するのは早計である、ということ。

④ 架空の思考実験であれば、ある事象について、それが絶対的に確実だと感じることも可能であるが、現実には、そのようなことは不可能であり、完全な「安心」など存在しない、ということ。

⑤ まさにその人物が、「針千本マシン」を埋めこまれているから嘘をつかないはずだ、と判断するところには、「安心」はあるが「信頼」はないと考えるのが妥当である、ということ。

問八 傍線部6「和田は認知症のお年寄りを信じようと思いました」とあるが、それはなぜか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

(30)

- ① 安心が前提にする、社会的不確実性がゼロの状況とは、確実にコントロールできているということであり、相手の行動が予測可能なものになってこそ、リスクの少ない介護を提供することが可能となるから。
- ② 生きることはそもそもリスクを伴うことであり、リスクを減らした「安全な生活」では、主体的に行動する人としてのステキな姿は消え失せ、結果的に、人としての活力が失われてしまう恐れがあるから。
- ③ 相手が意思を行動に移すとき、必ず想定外のこととは起こるものだが、「想定外」がゆるされるような生活の場を整えることは、逆に、自分の意志を行動に移そうとする気力を奪うことにつながりかねないから。
- ④ 入居者が「ふつうの生活」をすると、いくら安全対策がなされているとはいえ、周囲からすれば不安も残るが、そもそも「ふつうの生活」にはさまざまなリスクがともなうものであり、気にしても仕方がないから。
- ⑤ 鍵をかけ、行動を制限するなど、さまざまな工夫によって、リスクを最小化することは可能であるし、細心の注意を払って、ふつうの家に近い状態で生活することが社会的に求められているから。

II 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(四〇点)

共に、小説家である育子と夫。舌瘡と診断され、治療のために入院した夫は、早く治すために、育子とは、暫くの間筆談をすることにしていった。

洪川教授は、相変わらず七時半に十六階の病室に回診に現われ、夕方には食道の専門教授と来たという。放射線科を出る前に、肺、頭頸部、食道への転移の検査をしたのである。

育子は年に二度開かれる女性作家の会のレイカイに出席したあと、病院へ廻った。病院の食事がまずいと言うので、生卵と醤油を売店で買い、卵の黄身に醤油をまぜお粥にかけて食べさせる。手術後の食事はお粥はいいとしても、煮物も魚もすり身になっているから、おいしいわけではない。

ちよとど洪川教授が来て、

「針の炎症の痛みは、これからピークに向かいます。癒ってからも、ビールなどの発泡するもの、コーヒーなどの刺戟物は取らないようにして下さい」

という注意があった。医師の指示には

I

従う夫は、

「はい、わかりました」

と小学生のように答えた。どちらも夫の好きなもので、いつまでのことか、と育子は気にかかった。

夫の筆談は続く。

朝日にゲラを送る。これから毎週水曜日に送るように。ゲラが来たら届けて下さい。それ以外は来なくてもいい。君は君の生活を大切に……。

二五日 給料日 今月は昇給月。仏壇の引出しに手伝いの昇給額を記したカードが入っていますので、そのように支払って下さい。マサキ屋に、煙草の買置きが一カートンある。他の註文品と取り替えて貰う。

一日中ゲラ直ししかすることのない入院生活だから、色々な

II

が思い浮ぶのだろう。

育子が病院に行かれない日は娘が行き、息子は会社の帰りに寄るから夜になった。

育子の自選作品集の第二巻が出て、日本橋の百貨店新館書籍売場でサイン会があった。¹身内と親しい友人数人に声をかけただけなので人はまばらだった。遠いのでそう度々大学の仲間たちには声をかけられなかった。

前回はビルの地下通路が会場だったので Ⅲ につき、しかも書店がポラロイドカメラで著者と並んだ写真を写して購入した本に添えたのが好評だったから本が足りなくなってしまうが、今回は書籍売場より奥に引込んだ場所、 Ⅲ にはつかないのである。場内アナウンスもしているようだが、あまり聞えていないし、²第一聞えていたとしても、名前も知らない作家の自選作品集を求めに、こんな上階の売場の奥まで来る³酔狂な客もない。

前回と比してあまりに淋しいので育子は出版社に申し訳なく、 Ⅳ 。書籍売場の女子社員は、選集がこれだけ売れば成功です、と慰めてくれた。

帰りに病院に廻り、夫を入浴させたあと育子もはいった。気疲れもあつて肩がひどく凝っているので、少し長くはいつていると、夫が心配そうにのぞいた。

「眠っちゃったのかと思ったよ」

と笑いながら言ったが、サイン会があまり好調ではなかったことを報告しなくても察しているようだった。夫のサイン会は、時間内に終ったことがない程人が並んで、会場を片付けたあとまで別室ですることもある。

育子の肩凝りは あ 的で、それも若い頃から指圧師が通つて来ていた。健康ヨーガに通うようになったのも、肩凝りに効果があるからである。

夫の入院中、育子の出来ることは入浴させることと、一緒にレストランへ行くこと、ベッドの傍の椅子に腰掛けて足をマッサージしてやることぐらいである。

弟が入院していた時も、いつも足を揉んでやっていた。背中がづらい、と言う時には、背中をさすつてやっていた。夫は肺を切除した弟の背中にさわるのを、 V をしておい、やめろ、やめろ、と言うのだが、弟は、ねえさんはツボを知っているから気がいいんだ、と言っていた。夫の足をさすつてみると、育子は鉛の鎧よろいを着せられたようにどっと肩が重くなる。夫の病気が育子にもかぶさってくるような気がした。共に背負っても軽くなるわけはないのだが……。

藝術院会員の先輩作家の死が報じられた。夫は文芸部の部長だから、当然藝術院の葬儀には出席せねばならない。渋川教授に出席の許可を得たが、舌の

痛みがひどくなって外出するどころではなくなった。

藝術院には夫が入院していることを報告していない。育子は、肺炎で高熱が出て、出席出来なくなった、と連絡し、育子も欠席することにした。

「これからはもう講演も、友達の授賞式も、親戚の結婚式なんかも全部やめるよ」

と夫は言った。だが、先輩作家の葬儀に部長として出席出来ないことを、しきりに気にしていた。

三月三十日に退院と決った。二十三日間の入院生活のうち、八日間は放射線科の隔離室であった。看護師さんたちへのお礼はお前の本のほうがいい、と言うので、育子は人数分の著書にシヨメイ^Bして挨拶に行った。夫の歴史小説より、宇和島の真珠ヨウシヨク^Cの話のほうがいいに決っている。

闘いの日々だった。世話になったが、病院を振り返りたくもなかった。

翌日から夫は一番心の落着く書齋で仕事を始めた。二泊三日以上の取材を続けることはない。家に帰りたいのではなく、書齋に帰りたいのである。

「これが本になったら、一緒に伊勢神宮へおまいりに行こう」

VI

と夫は VI で言った。旧幕軍が新政府軍と戦って一日で敗れた上野のいくさは、荒川区生れの夫にとって土地勘がありすぎるほどあって、「少しくわしすぎるんじゃないの」

と育子が言ったほどだった。お互いの小説は読まないことにしていたが、旧幕軍の精神的支柱であったために朝敵となり、カレツ^Dな生涯を送った皇族の曾孫^{ひまご}が伊勢神宮の大宮司で、夫は取材で訪ねており、書き始めた頃に育子も一緒に伊勢神宮へ行っている。仕事以外の旅をしない夫と旅行をするには仕事について行くしかなく、育子は伊勢神宮へ行くのをどれほど楽しみにしていたことか。

病院の食事がまずいと言っていた夫は、うちのめしはうまいなあ、と食事の度に言った。家でも浴室で体重を計り、毎日日記につけるほど体力回復を気にかけていた。昼でも居眠りすることが多いのは、やはり疲れるのであるう。

書齋の窓の前の紅梅はもう終っていて、しだれ桜の蕾^{つぼみ}がふくらんできていた。夫は紅梅が、育子は花の咲く樹は何でも好きで、しだれ桜も二人で植木屋の庭園を歩き廻って買った樹である。

庭には椿^{つばき}、梅、辛夷^{こぶし}、沈丁花^{しんちょうげ}、木瓜^{ぼけ}、躑躅^{つづじ}、花水木、山吹、雪柳^{しゃくなげ}、石楠花^{しゃくなんげ}、夏椿^{くちなし}、山梔子^{もくせい}、木犀^{もくせい}、百日紅^{さるすべり}、萩^{さざんか}、山茶花^{さざんか}、と、常にシーズンを追って花が咲く。植木屋が刈り込んで姿を整えるような松や柘植^{つげ}などはない。庭の塀沿いには丈の高い樹、手前には沈丁花や躑躅などの低木が並んでいる。

実がなる樹は三本の梅と杏^{あんず}で、育子は梅酒と杏酒を漬けるのを楽しみにしていた。

母屋の書齋が手狭となって庭の公園側に書齋を建てる話⁵が持ち上ったとき、出先から帰って来た育子は、杏の木が切り倒されているのを見て仰天した。

書齋の建築を始めるのに邪魔だったから、と夫は当然のように言った。

「切らなくても、移植すればいいじゃないの」

と、育子はわめいた。職人が気まずそうな顔をしたので、育子は口をとぎしたが、夜になってあの樹がどんなにいい実をつけたか、杏酒がどんなにおいしかったか、と蒸し返した。酒を飲んでいた夫は、今更どうにもならないことを言うな、と言い放って出て行ってしまった。こうなると、帰宅は遅いのである。

大きくなった木を植え替えるのは手間がかかるし、第一移植しても枯れるかもしれない。夫の言うように今更仕方がないことなのに、育子の落胆は大きかったのだ。一応育子の了解を求められれば承知したかもしれないと思う。留守中に勝手に切ってしまったのが腹立たしかったのである。

夫は、新しい書齋に、三方の壁の床から天井までの書棚を設え、東側に開けた窓の上部も書棚にし、窓に面して資料を置くために長い長い机を設置する設計をたてていた。机の右手には書き上った原稿や資料を入れるカルテ入れのような棚を二列に造りつける。

この書齋が出来ればどんなに仕事がい易いだろう、と楽しみにしていたのだ。その楽しみにけちをつけてしまった結果になり、育子はひどく気が滅入った。鍵を持たずに出て行った夫を寝ずに待たねばならなかった。

夫は退院後放射線科に通っており、順調に回復しているようであった。そんな折に丹生氏の死の報は、二人に衝撃を与えた。氏は文学を志す者たちのために私財を提供し雑誌を出し続けてくれた恩人である。

その雑誌が一時休刊になった時誘われた同人雑誌に夫婦で参加したが、メンバーは六人、発行は季刊、全員が必ず作品を出す、という条件を決めたのは、先輩の主宰者で特異な感性を持つことで話題になっている作家だった。同人が多すぎるとまとまりがつかず、掲載されない同人が不満を抱くようになるので、メンバーをよりすぐり、人数を限定したのである。

当時夫婦は、小田急線の狛江に住んでいた。まだ駅前はたすに商店もなく、島の中に農家が副業で建てた六部屋だけのアパートで、手洗いも共同、炊事場には各家の石油コンロを一台ずつ置くスペースしかなかった。夫が兄の会社から貰う給料が一万五千元で家賃が三千元。同人費二人分三千元を払うと九千円しか残らない。そのアパート暮しの時に長男が生れたので、育子はまず粉ミルクの缶を買い、残りで暮しをたてていた。

その後丹生氏が雑誌を復刊し、同人費を払わなくてもよくなった有難さは身に沁しみみした。

この雑誌に発表した夫と育子の作品は、文学賞の候補に代る代るのぼり、マスコミが三度目の正直とか、七転び八起きとか、面白がって書き立てたものである。

当時新人文学賞の募集というものは殆どなく、文学を志す者は同人雑誌に発表するしか道がなかった。夫は絶海の孤島から手紙を壘に入れて海に流すようなものだと言っていた。それを拾ってくれるのが同人雑誌評で、二人は学生時代から十五年間も同人雑誌に書き続けてきたのだった。

各同人雑誌が推薦する作品のコンクールで受賞した育子は、主宰者の丹生氏と共に授賞式に出席した。この賞は雑誌の主宰者と作者に五万円ずつ賞金が与えられるので、二百五十六号もの雑誌の費用を出し続けてきた丹生氏が、五万円の金封を高々と上げて、

「有難う、有難う」

と礼をのべて満場の拍手を浴びた光景を思い浮べると、育子は今でも胸が熱くなる。

丹生氏の通夜は自宅で近親者のみで行われ、育子と雑誌の仲間三人、編集者二人が参列した。本葬は築地の本願寺で行われ、夫が弔辞を読んだ。

氏は四日市の浄土真宗の寺の長男に生れながら文学を志して上京し、冷徹な眼で人間を

VIII

数々の名作を書いて世に出た。やがて恐るべき

数の作品を書き続けて、常に文壇の い 形作家であった。

晩年浄土真宗の開祖やチュウコウの祖をテーマにした大作を完成したが、この偉大な作家の死によって、育子は一つの時代が終ったという感慨を抱いた。

(津村節子『紅梅』より。ただし出題の都合上、表現を一部改めた箇所がある)

問一 二重傍線部A～Eのカタカナを漢字で書いたときに、その漢字と同じ漢字をふくむものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

A ① ヒレ|イ|代表の候補者

(31)

② チョウ|レイ|ボカイ

③ 学問をシヨウ|レイ|する

④ コン|レイ|衣装

⑤ 男装のレイ|ジン

B ① ユイ|シヨ|ある寺

(32)

② 防災ハク|シヨ|

③ キユウ|シヨ|を突く

④ シヨ|タイ|メン

⑤ 別のブ|シヨ|に異動する

C

(33)

① ガク|シヨク|豊かな人

② コウ|シヨク|追放

③ 牽牛けんぎゅうとシヨク|ジヨ

④ 全国シヨク|ジュサイ

⑤ シュツ|シヨク|の出来映え

D ① カ|キユウ|の用事

(34)

② カ|セイ|は虎よりも猛し

③ 大きなフ|カ|がかかる

④ 将来にカ|コン|を残す

⑤ カロウ|シライ|ン

E ① 株価のラン|コウ|ゲ

(35)

② 身に余るコウ|エイ

③ ネン|コウ|ジョレツ

④ 追善コウ|ギョウ

⑤ 研究のためにヨウ|コウ|する

問二 空欄 I 〃 VIII に入れるのに最も適当なことを、次の各群の ①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

- | | | | | | | |
|---------|---------------------------------|--------------------------|----------------------------------|----------------------------|-----------------------------|------|
| 空欄 I | ① 木で鼻を括 <small>くく</small> つたように | ② これ見よがしに | ③ 忠実に | ④ 年 <small>が</small> 甲斐もなく | ⑤ 饒舌 <small>じょうぜつ</small> に | (36) |
| 空欄 II | ① 愚行 | ② 失態 | ③ 雑事 | ④ 遣 <small>つ</small> 付け仕事 | ⑤ 憎まれ役 | (37) |
| 空欄 III | ① 鼻 | ② 耳 | ③ 尻尾 <small>しっぽ</small> | ④ 人目 | ⑤ 板 | (38) |
| 空欄 IV | ① 有り難迷惑であった | ② 肩身が狭かった | ③ 砂を噛 <small>か</small> むような思いがした | | | |
| | ④ 七面倒くさかった | ⑤ 太平楽を並べた | | | | (39) |
| 空欄 V | ① 青い顔 | ② 浮かぬ顔 | ③ 甘い顔 | ④ 何食わぬ顔 | ⑤ 涼しい顔 | (40) |
| 空欄 VI | ① おろおろした声 | ② 猫撫 <small>な</small> で声 | ③ はずんだ声 | ④ 間の抜けた声 | ⑤ 冷ややかな声 | (41) |
| 空欄 VII | ① かつちりした | ② 放漫 <small>な</small> | ③ 煮え切らない | ④ 食えない | ⑤ 大らかな | (42) |
| 空欄 VIII | ① 見破 <small>や</small> つた | ② 見返した | ③ 見積 <small>か</small> もつた | ④ 見据 <small>か</small> えた | ⑤ 見え透 <small>か</small> いた | (43) |

問三 傍線部1「身内と親しい友人数人に声をかけただけなので人はまばらだった」とあるが、このときの育子の気持ちはどのようなものか。その説明として最も適当なものを、次の ①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 自選作品集を刊行してくれたことはありがたいが、今は夫の療養のために気持ちに余裕がなく、正直なところ、余計なお世話であった。
- ② 病気の療養を第一に考えなければいけない夫に、一度のサイン会が不調であったことぐらいで、あれこれと気を遣わせてしまい、申し訳ない。
- ③ 著者と記念撮影するという好評企画を、今回は、夫の療養中ということで、派手派手しくない、別の企画に差し替えたことが悔やまれる。
- ④ 会場が遠くて、大学の仲間たちに声をかけることが憚はばられたので、次回は、もう少し近場に会場を設定してもらえればありがたい。
- ⑤ 出版社が、自選作品集の刊行を盛り上げようとしてくれていているのに、知名度の低い自分では、期待に応えることができません、いたたまれない。

(44)

問六 傍線部6「出先から帰って来た育子は、杏の木が切り倒されているのを見て仰天した」とあるが、この件に対して、育子の心境はどのように変化したか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

(56)

① 当初は驚いて、勝手に切り倒してしまった夫に対する気持ちが収まらず、無理難題をふっかけた。しかし、新しい書齋が、今の夫にとって唯一の安らぎの場所であることに気づけなかった自分にも落ち度があったことは反省すべきであると考えを改めた。

② 当初は驚いて、自分の了解も取らずに切り倒した夫に食ってかかるなど忌々しく思っていた。しかし、新しい書齋で仕事をするのを心待ちにしていた夫の気持ちに言いがかりを付けたような格好になってしまったことは決して本意ではなく、気落ちしてしまった。

③ 当初は驚いて、書齋の建築を始めるのに邪魔だったから切り倒しただけだと、何でもないことのように言う夫に対する怒りがこみ上げてきた。売り言葉に買い言葉で出て行く夫も夫だが、たかが杏の木のことでもいつまでも怒るのも大人げないと反省した。

④ 当初は驚いて、理不尽なことを言う夫に腹も立ったが、作業した職人の手前、それ以上その場での追及は慎んだ。しかし、どうにも怒りが収まらず、夜になって蒸し返したところ、夫はへそを曲げて出て行ってしまった。まさか出て行くとは思っておらず、ひどく落ち込んでしまった。

⑤ 当初は驚いて、自分の留守中に勝手に切り倒してしまった夫のことが腹立たしく思われた。勝手に切り倒してしまったことを詫言に詫めるしかないと思ったが、長年連れ添ってきた夫が紅梅以外の木には関心がないのかと思うと、少し寂しさを覚えた。

問七 傍線部7「七転び八起き」の意味の説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

(57)

① 両方とも手に入れようとして、どちらも取り損なうこと。

② 苦痛に耐えられず、何度もころげまわること。

③ 長い間不遇だった人にも、意外な幸運が訪れることがあること。

④ 辛くとも諦めず続ければ、最後には必ず成功すること。

⑤ 何度失敗してもめげることなく、立ち向かうこと。

問八 傍線部9「育子は今でも胸が熱くなる」とあるが、育子はなぜそのような思いを抱いたか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

(58)

① 金銭的には報われない同人雑誌を出し続けてくれた丹生氏の恩に報いるためには、自分と夫が、彼の同人雑誌を引き継がなければならないと決

意を新たにしたから。

② 賞金を無邪気に喜ぶ丹生氏の姿に、文学を志す者たちのために私財を提供し雑誌を出し続けてくれた彼の、長年にわたる厚情と苦勞のほどが強く偲しのばれたから。

③ 文学を志す者は同人雑誌に発表するしか道がなかった時代に、同人雑誌評で取り上げられるように口を利いてくれた丹生氏の恩に報いることができたと思ったから。

④ 文学賞の候補に代る代るのほりはしたが、なかなか受賞には至らなかった夫と自分に、丹生氏が主宰者として、復刊した雑誌に小説を発表するよう持ちかけてくれたから。

⑤ 各同人雑誌が推薦する作品のコンクールで自分が受賞したときに、我が事のように喜んでくれた丹生氏が亡くなり、一つの時代が終わったという感慨を抱いたから。

ご注意

1. 本書の一部あるいは全部について、発行者の許可を得ずに、無断で複写・転写することは禁じられています。
2. 本書の内容に誤り・誤字脱字などございましたら、ご連絡いただくと幸いです。

2023/7/1

発行・制作:広島国際大学入試センター

連絡先:739-2695 広島県東広島市黒瀬学園台555-36

TEL: 0823-70-4500 FAX: 0823-70-4518

Mail: HIU.Nyushi@josho.ac.jp

URL: <https://www.hirokoku-u.ac.jp/>

Copyright © 2023 Hiroshima International University, All rights reserved.
